

**ニーズ調査の結果を踏まえ、
第11次秋田市高齢者プランから
秋田市の福祉課題と今後の取り組みを考える**

令和6年4月26日 秋田市長寿福祉課



エイジフレンドリーシティあきた

介護予防・日常生活圏域高齢者ニーズ調査について

1 調査目的

要介護状態にない高齢者を対象に、要介護状態になる前のリスクや社会参加状況などを把握し、第11次秋田市高齢者プラン策定のための基礎資料とする。

2 調査項目

No	設問内容	設問内容の意図	設問数
問1	あなたのご家族や生活状況について	基本情報	6
問2	からだを動かすことについて	運動器機能の低下・転倒リスク・閉じこもり傾向を把握	11
問3	食べることについて	口腔機能の低下・低栄養の傾向を把握	10
問4	毎日の生活について	認知機能の低下、IADLの把握低下	20
問5	地域での活動について	ボランティア等への参加状況・今後の参加意向	5
問6	たすけあいについて	うつ傾向を把握	8
問7	健康について	知的能動性・社会的役割・社会参加の状況等を把握	12
問8	認知症に係る相談窓口の把握について	認知症に関する相談窓口の認知状況を把握	3

介護予防・日常生活圏域高齢者ニーズ調査について(つづき)

3 調査対象

令和4年12月1日時点で、秋田市に居住する65歳以上の要介護認定を受けていない方2,000人(中央・東・西・南・北の5圏域×400人を無作為抽出)

4 調査期間

令和4年12月23日～令和5年1月25日

5 回収結果

回収件数:1,372件

回収率:68.6%

回答者の属性

〈一般高齢者・要支援認定者区分〉

(上段:実数、下段:%)

全体	一般高齢者	要支援認定者	不明
1372	1275	91	6
100.0	92.9	6.6	0.4

〈性別〉

○一般高齢者

(上段:実数、下段:%)

全体	男性	女性
1275	586	689
100.0	46.0	54.0

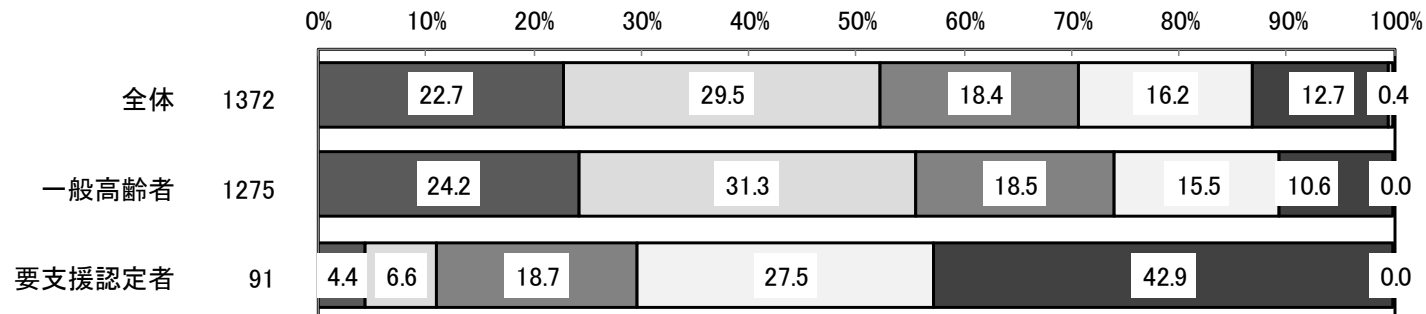
○要支援認定者

(上段:実数、下段:%)

全体	男性	女性
91	24	67
100.0	26.4	73.6

〈年齢階級別〉

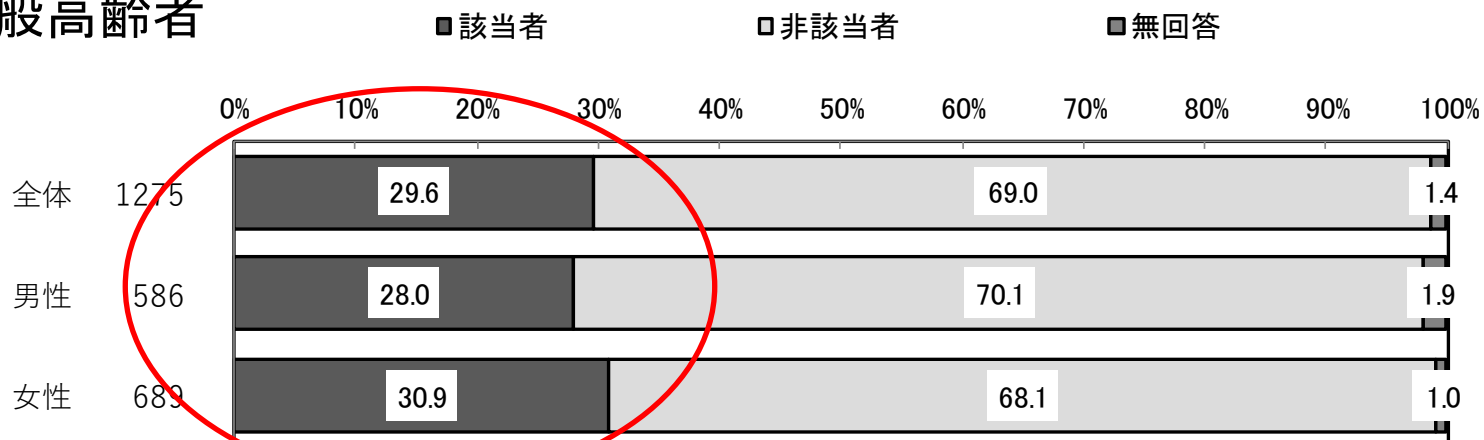
■65～69歳 □70～74歳 ■75～79歳 □80～84歳 ■85歳以上 □不明



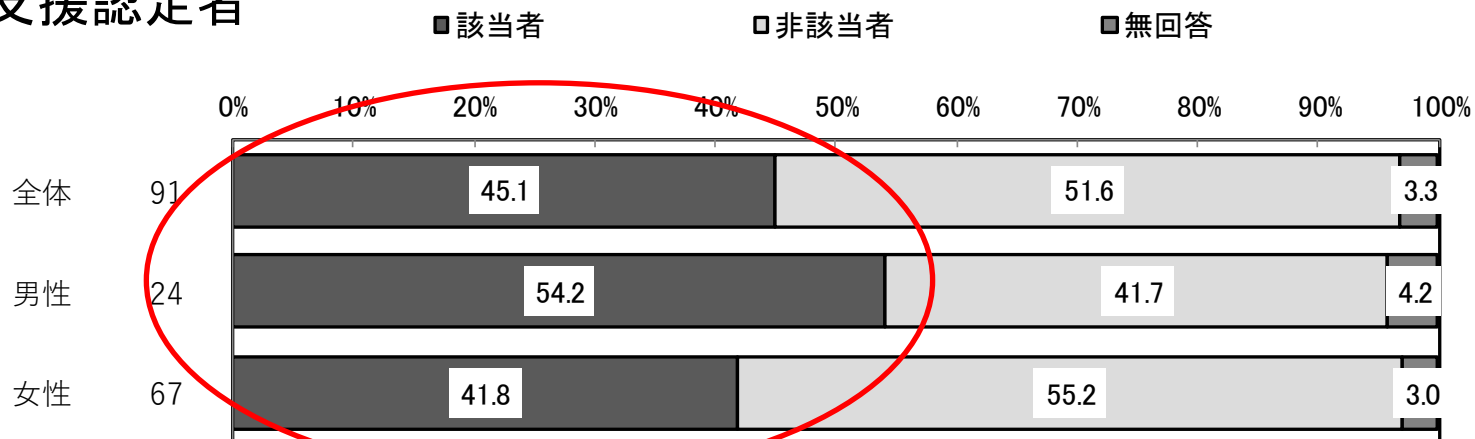
調査の結果

〈転倒リスク〉

○一般高齢者



○要支援認定者



調査の結果(つづき)

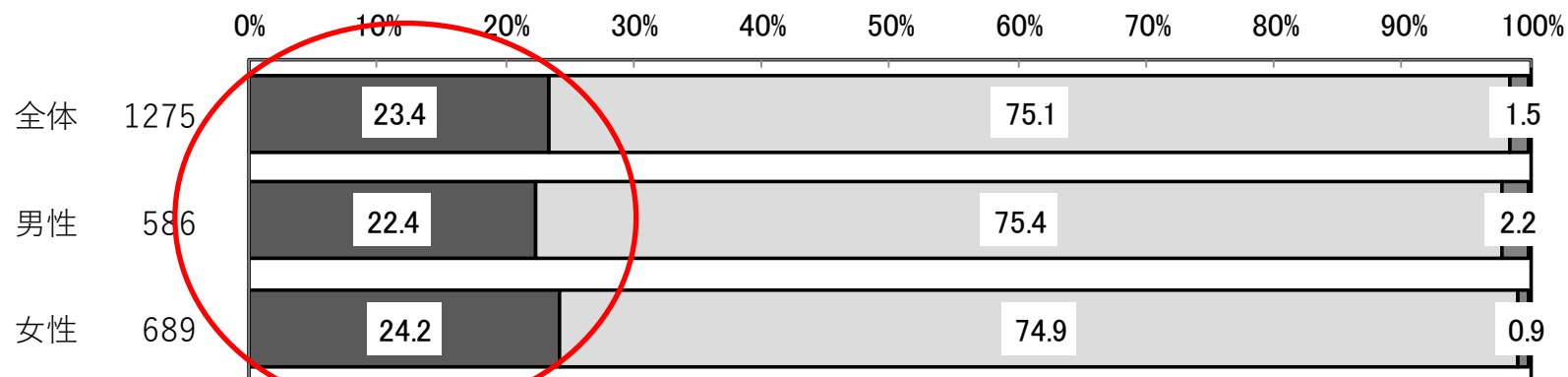
〈口腔機能の低下〉

○一般高齢者

■該当者

□非該当者

■無回答

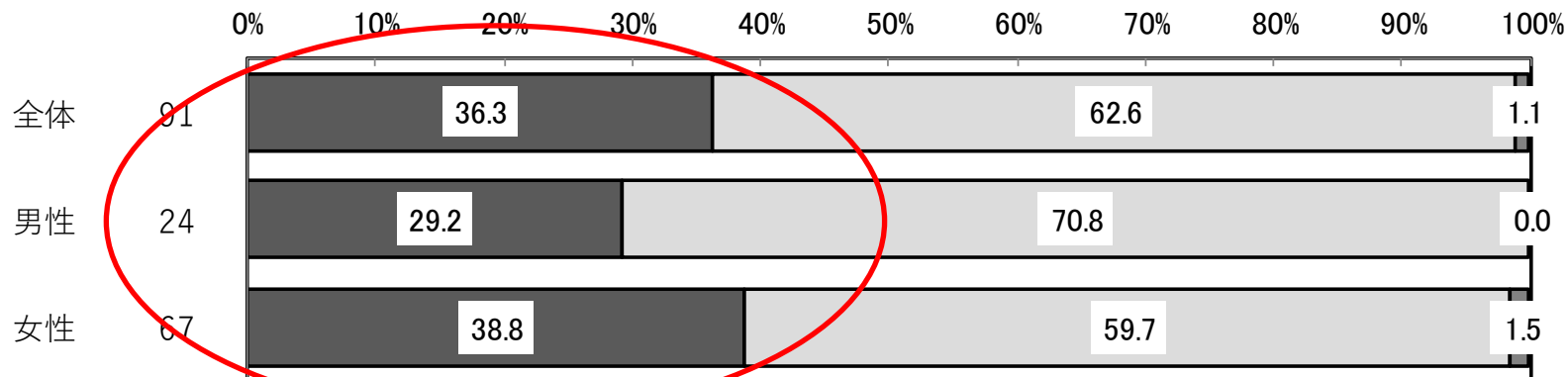


○要支援認定者

■該当者

□非該当者

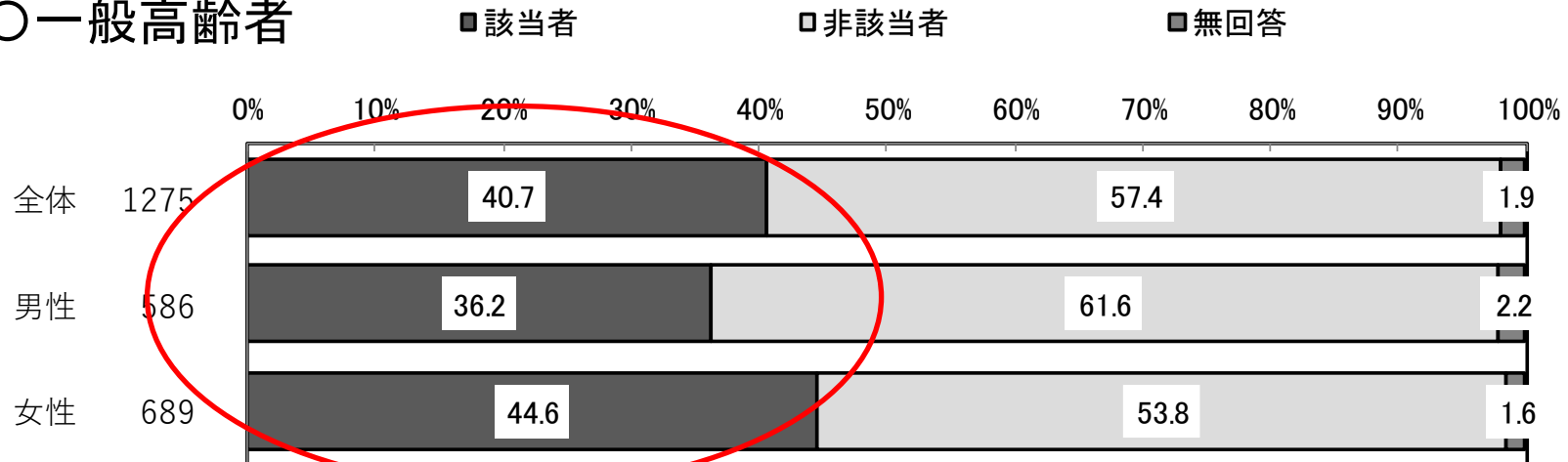
■無回答



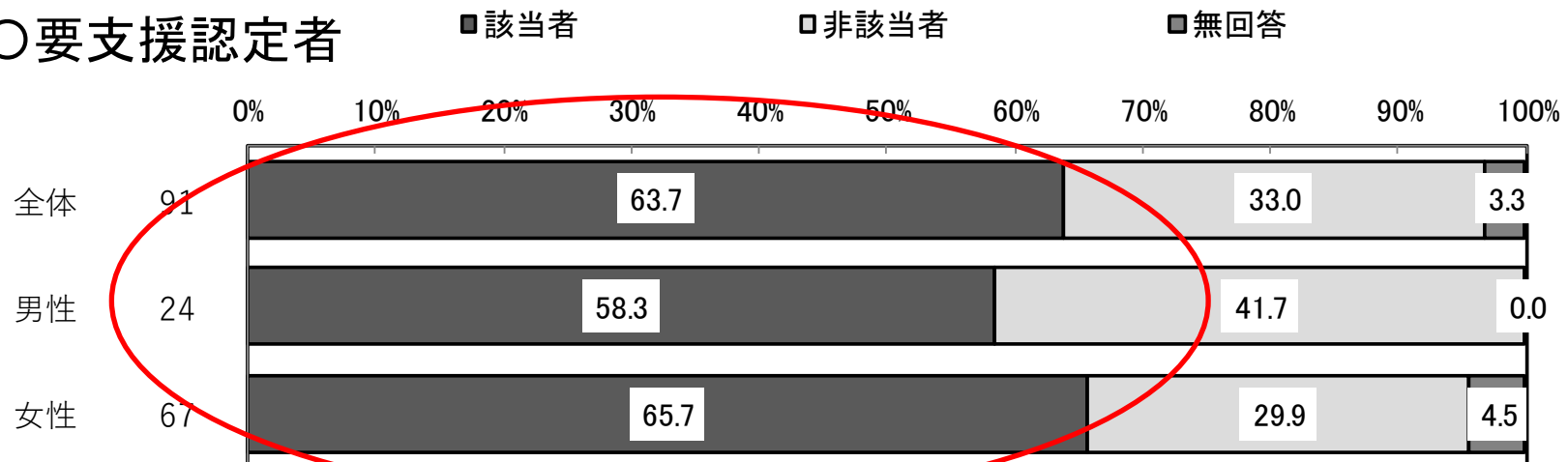
調査の結果(つづき)

〈うつ傾向〉

○一般高齢者



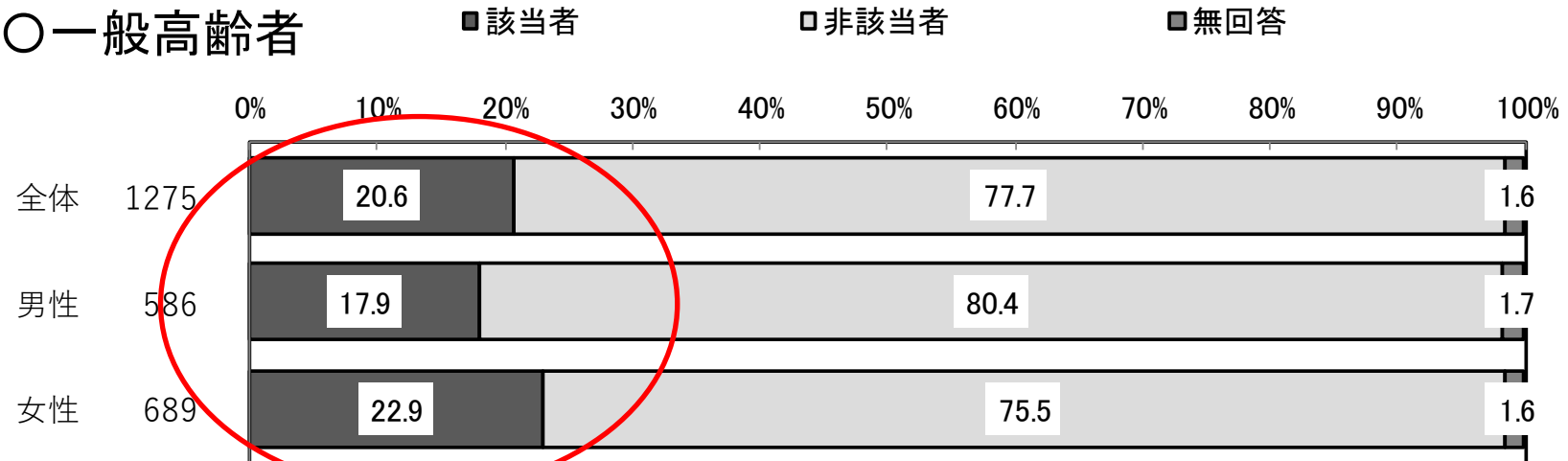
○要支援認定者



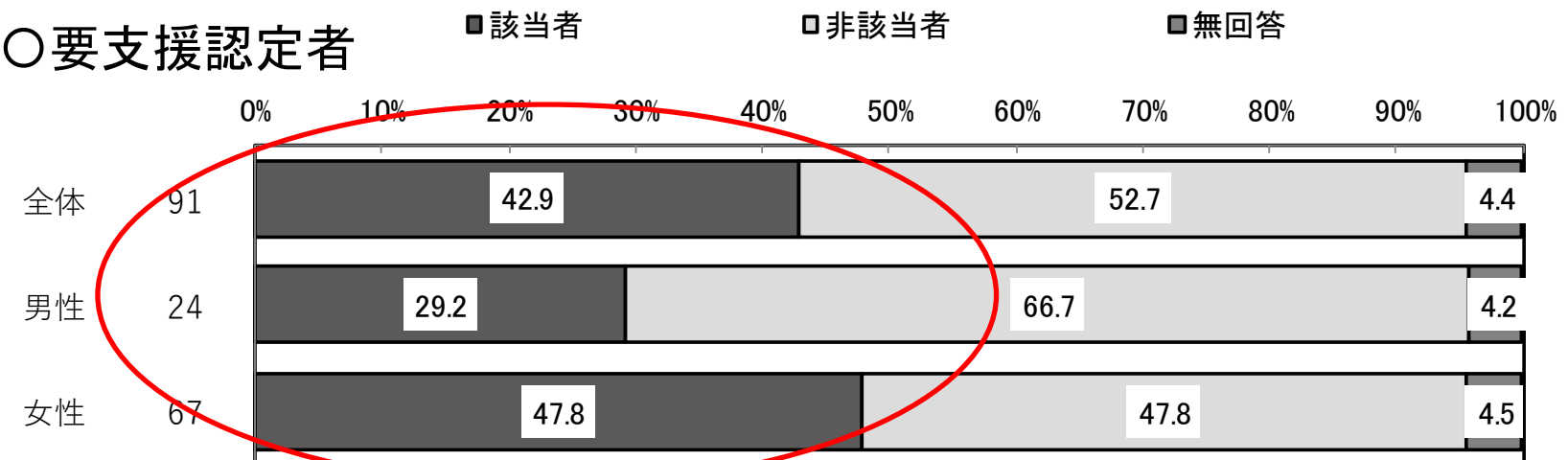
調査の結果(つづき)

〈閉じこもり傾向〉

○一般高齢者



○要支援認定者



調査の結果(つづき)

〈地域での活動(生きがい・社会参加)〉

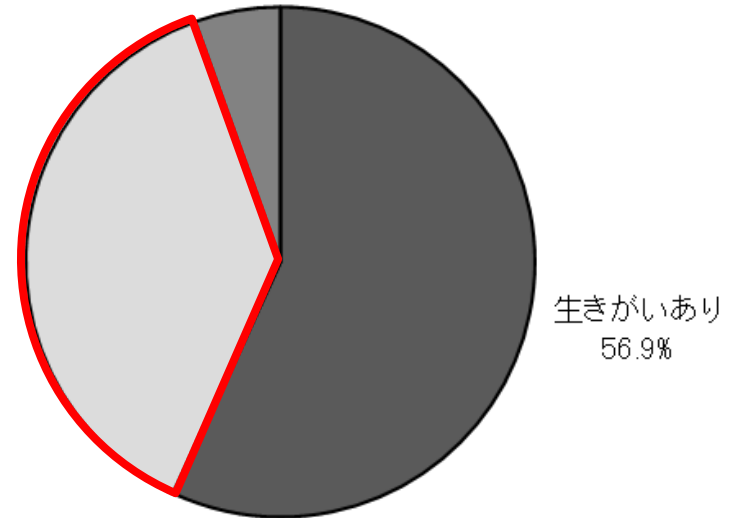
○生きがいはありますか

「思いつかない」・・・37.6%

(N = 1372)

思いつかない
37.6%

無回答
5.5%

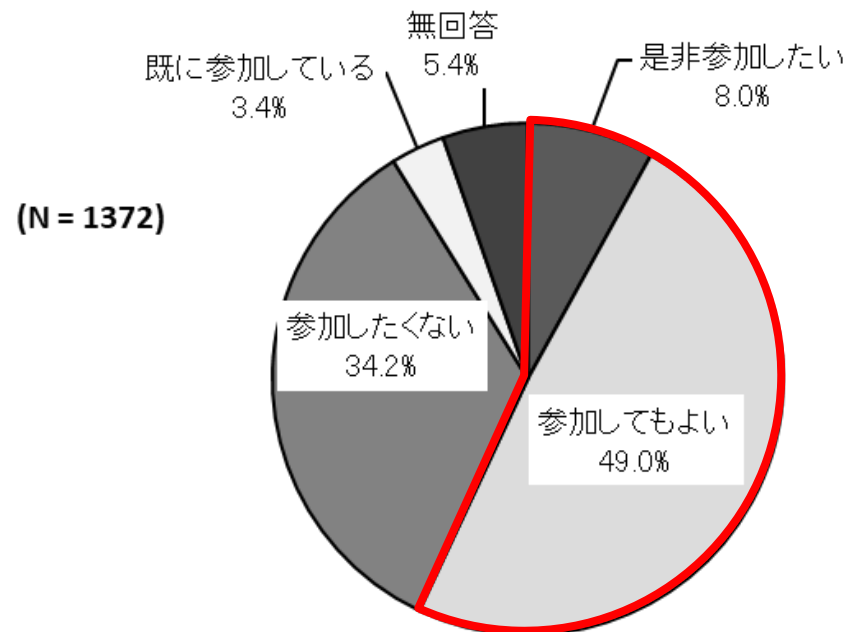


調査の結果(つづき)

〈地域での活動(生きがい・社会参加)〉

○地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域活動を進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいですか

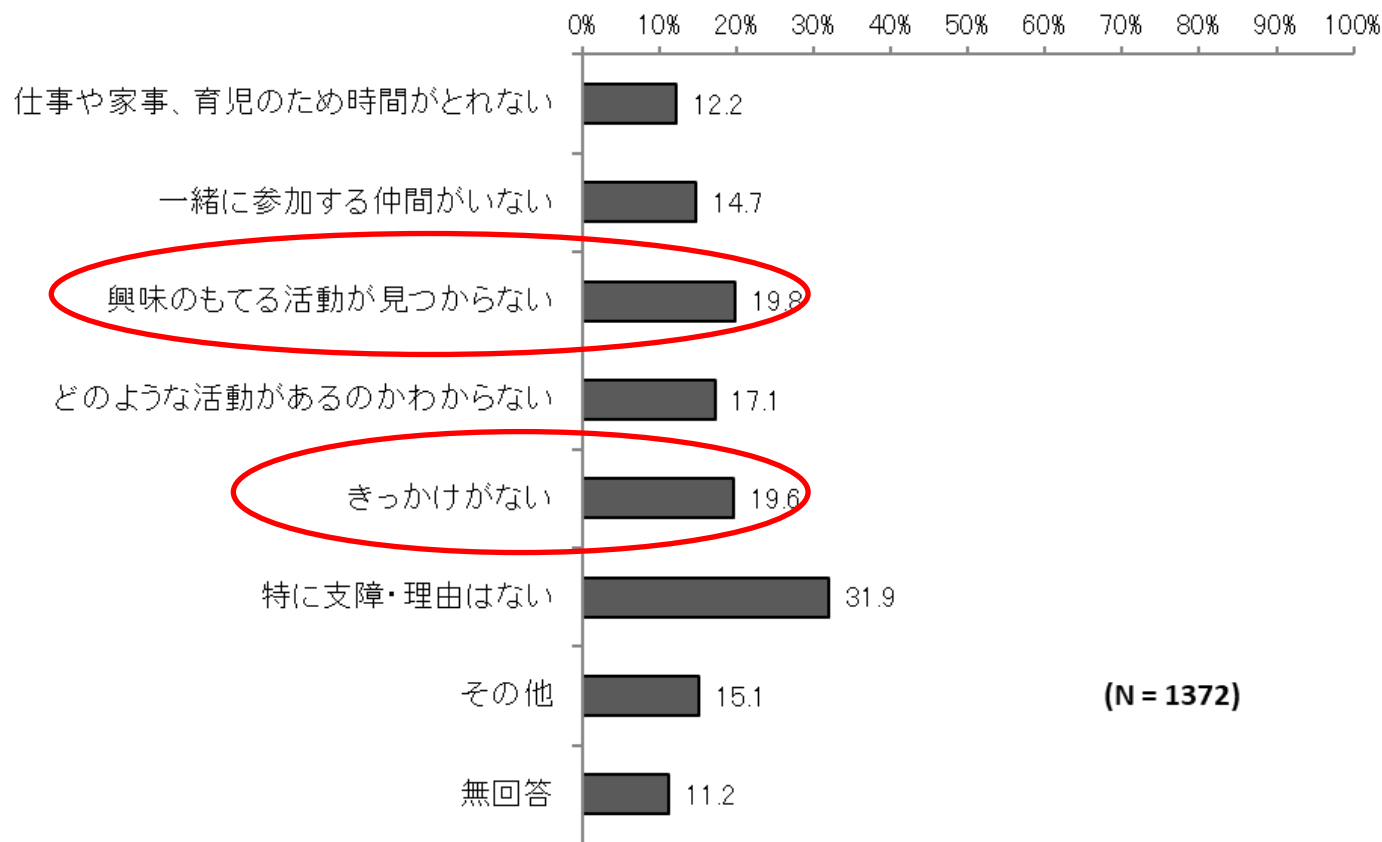
「是非参加したい」・・・8.0%
「参加してもよい」・・・49.0%



調査の結果(つづき)

〈地域での活動(生きがい・社会参加)〉

○あなたが地域活動に参加するとき、支障になること(参加しないまたは参加できない理由)は何ですか



調査の結果(つづき)

〈地域での活動(支え手として)〉

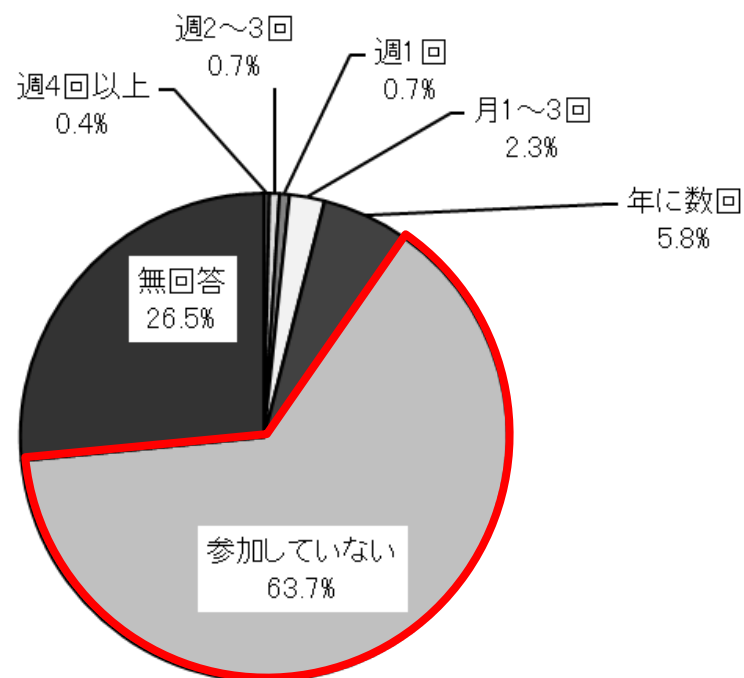
○ボランティアグループへどのくらいの頻度で参加していますか

「参加している」

- ・週4回以上 ……0.4%
- ・週2～3回 ……0.7%
- ・週1回 ……0.7%
- ・月1～3回 ……2.3%
- ・年に数回 ……5.8%

「参加していない」……63.7%

(N = 1372)

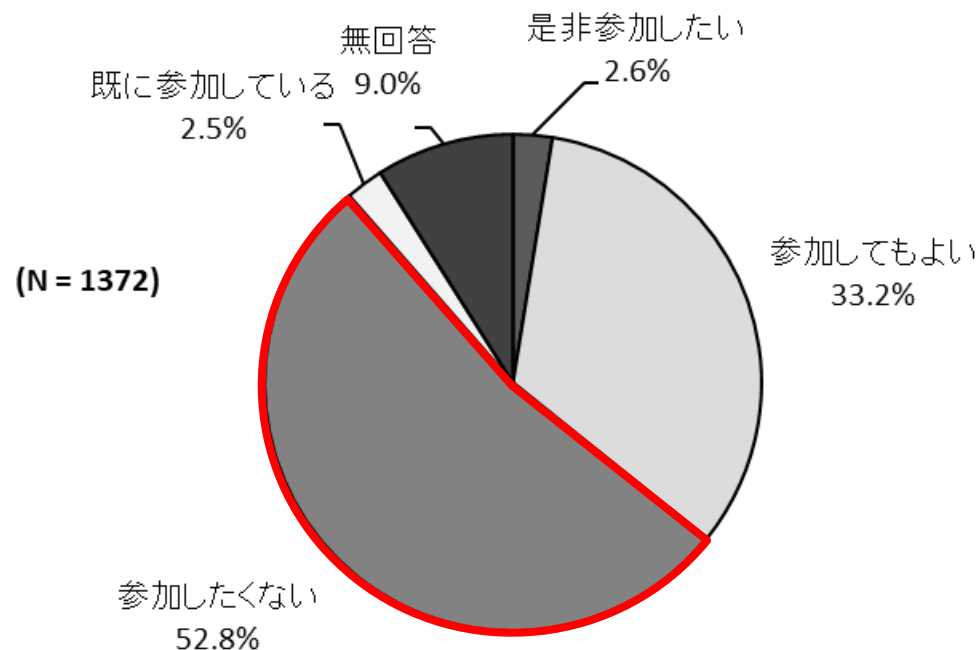


調査の結果(つづき)

〈地域での活動(支え手として)〉

○地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域活動を進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいですか

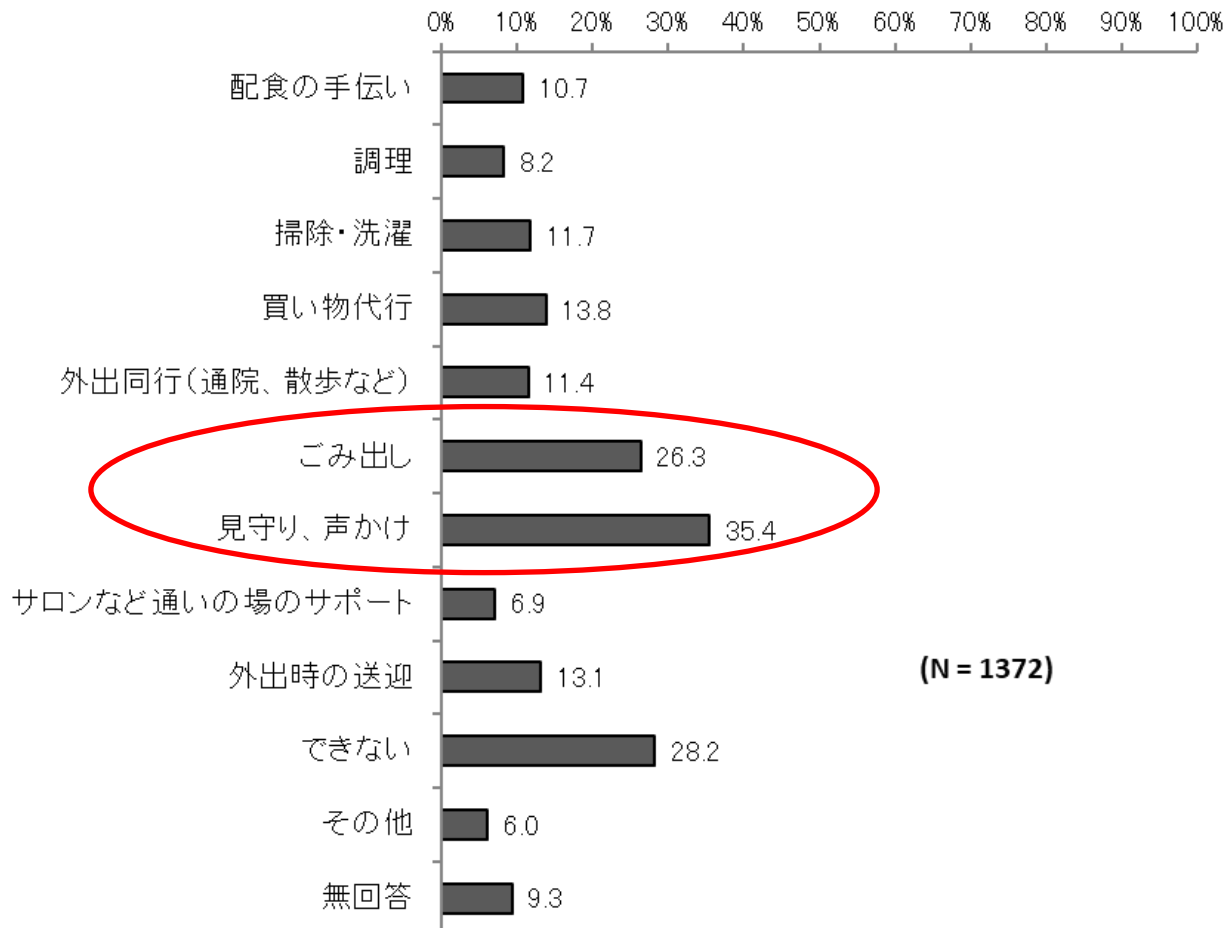
「参加したくない」・・・52.8%



調査の結果(つづき)

〈地域での活動(支え手として)〉

○あなたは地域でどんな支援ができますか

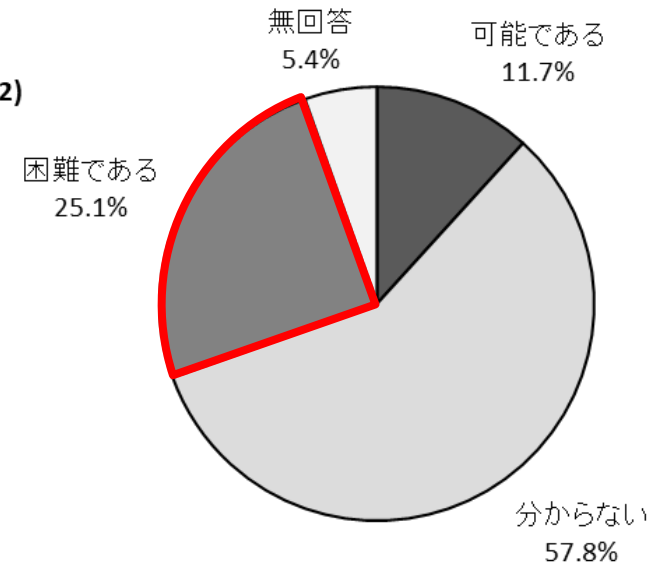


調査の結果(つづき)

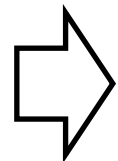
〈在宅医療・在宅介護〉

○あなたやあなたの家族は自宅で最期まで過ごすことができますか

(N = 1372)



「困難である」・・・25.1%



○自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由は何ですか

「介護する家族に負担がかかる」・・・68.3%

「症状が急に悪くなったときに、どうしたらよいか不安がある」・・・49.4%

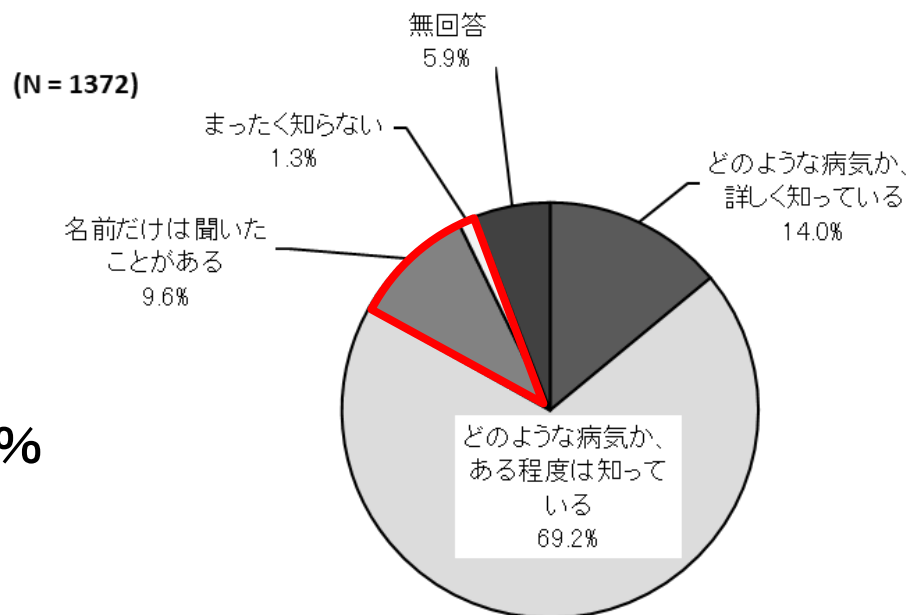
「症状が急に悪くなったときに、すぐに病院に入院できるか不安がある」・・・45.6%
など

調査の結果(つづき)

〈認知症〉

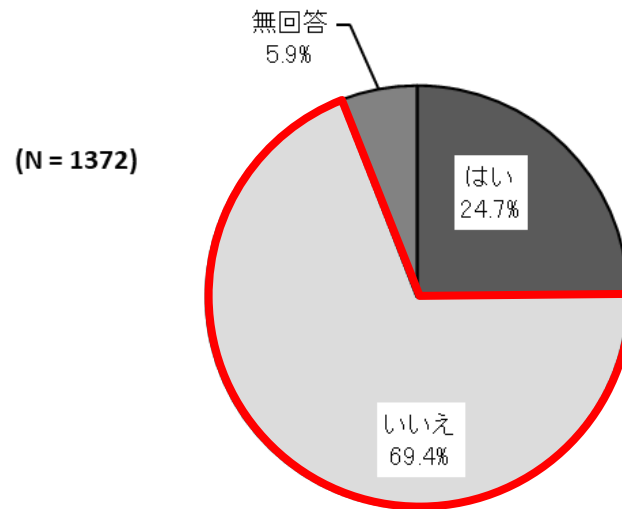
○あなたは、認知症について
知っていますか

「名前だけは聞いたことがある」・・・9.6%
「まったく知らない」・・・1.3%



○認知症に関する相談窓口を
知っていますか

「いいえ」・・・69.4%



考察

〈生きがいづくりや社会参加の促進〉

○生きがい「思いつかない」人

「閉じこもり傾向」「うつ傾向」のリスク 高

→生きがいづくりや、地域活動・社会活動への参加を促す取組が必要

就労機会の提供や、特性を活かしたボランティア活動の
創設・提供

考察(つづき)

〈介護予防活動の取組〉

- 一般高齢者であっても、転倒やうつ傾向、口腔機能の低下のリスク高
→自ら介護予防に取り組んでいくことが大切

地域の身近な活動への参加を促し、このような場や取組をより一層整備、支援していくことが必要

- 地域活動に参加するときに支障になることは、「興味のもてる活動がみつからない」、「きっかけがない」が多くを占める

対象者に地域活動の情報を届け、社会との接点を持ち続けるため、高齢者のニーズを踏まえた多様なグループ活動の場の創設に繋がる施策が必要

考察(つづき)

〈住民主体の支え合い活動の取組〉

○参加者として参加する場合・・・

半数の人が、「是非参加したい」または「参加してもよい」



企画・運営(お世話役)として参加する場合・・・

半数の人が、「参加したくない」

○ボランティア活動への参加状況

参加している人の割合 1割程度

高齢者が地域の支え手として、企画・運営(お世話役)やボランティア活動に参加したい人が増えるように、高齢者の特性を把握し、活躍の場を与えられるような多様な活動の場の創出が必要

考察(つづき)

〈認知症高齢者への支援の充実〉

○認知症の知名度が、全体の8割を超える



認知症に関する相談窓口の認知度は2割半ば

認知症高齢者が適切な支援を受けられるよう、
相談窓口の設置だけでなく、相談窓口の認知度を高めていく
工夫が必要

考察

〈在宅医療と在宅介護の連携推進〉

○(再掲)

「介護する家族に負担がかかる」・・・68.3%

「症状が急に悪くなったときに、どうしたらよいか不安がある」・・・49.4%

「症状が急に悪くなったときに、すぐに病院に入院できるか不安がある」・・・45.6% など

- ・介護する家族の存在や負担軽減を視野に入れたサービスの拡充が必要
- ・高齢者が在宅での療養生活を継続していくために、医療と介護の連携をさらに綿密にしていく必要

第11次秋田市高齢者プラン(第9期秋田市介護保険事業計画)

策定目的

本市を取り巻く状況や高齢者の実情に応じた保健・福祉サービスや介護サービスの提供量と提供体制を確保し、必要とされる各種の施策・事業の実施が計画的に図られるようにすることを目的として、第9期秋田市介護保険事業計画を包含した第11次秋田市高齢者プランを策定するもの

計画期間

令和6年度から8年度までの3年間

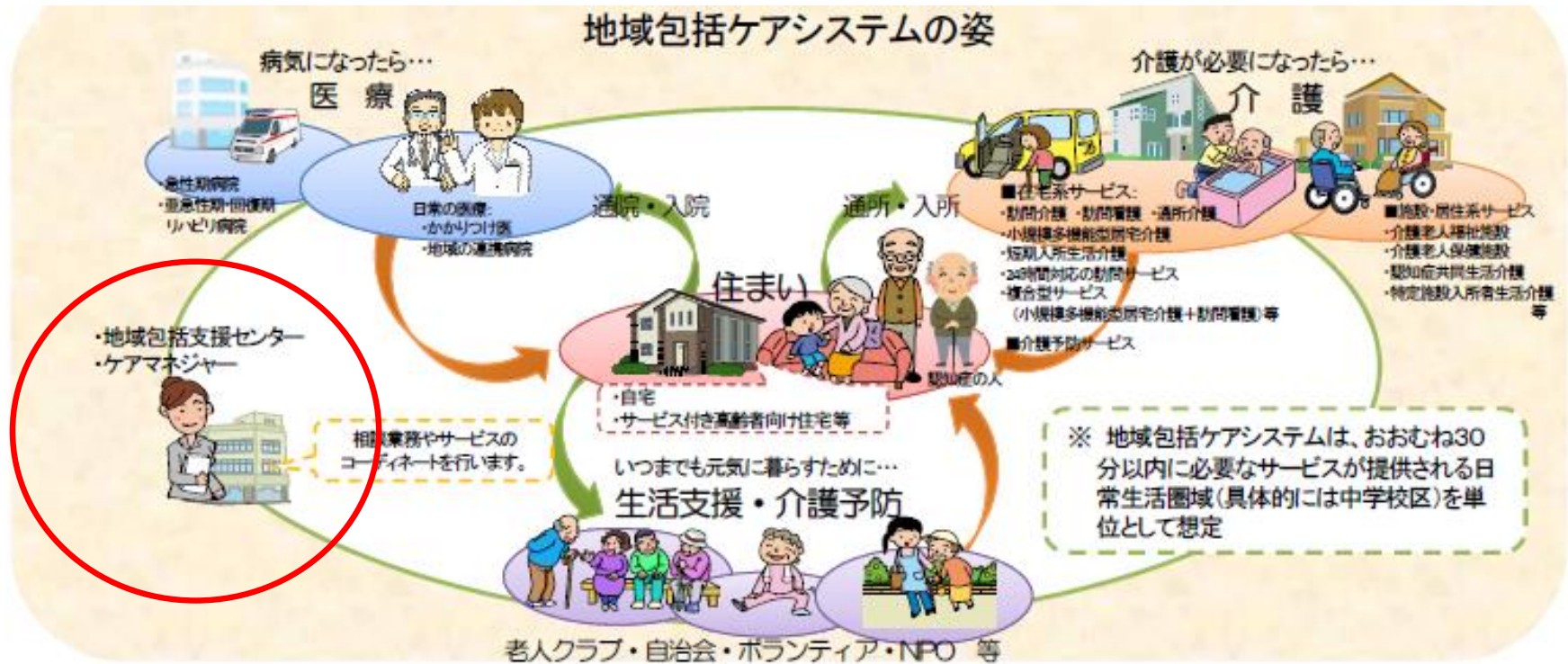
基本理念

『自分らしく生きがいをもって輝ける健康長寿社会』

基本目標

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1 エイジフレンドリーシティの実現 | 7 生活支援サービスの充実 |
| 2 地域包括ケアシステムの構築 | 8 生きがいづくりと社会参加の促進 |
| 3 <u>在宅医療・介護連携の推進</u> | 9 介護保険サービスの質と量の確保 |
| 4 <u>認知症施策の推進</u> | 10 介護給付等に要する費用の適正化 |
| 5 <u>権利擁護の推進</u> | 11 災害に対する取組 |
| 6 <u>介護予防・健康づくり施策の充実</u> | 12 感染症に対する取組 |

基本目標2 地域包括ケアシステムの構築



(厚生労働省より)

基本目標2 地域包括ケアシステムの構築(つづき)

【目指すべき姿】

○地域包括支援センターが地域包括ケアシステムの中核的な機関としての役割を十分に果たす。



【重点施策】(1) 地域包括支援センターの機能強化

→地域組織との良好で綿密なネットワークづくり

(2) 地域包括ケアの推進

→地域における課題の把握と、問題解決に向けた取り組みの実施

プランにおける指標		R6年度	R7年度	R8年度
地区組織との良好な関係づくりのための取り組みを実施できている地域包括支援センターの割合	目標値	100%	100%	100%
地域特性および地域住民のニーズを把握し、地域住民が抱えている課題等を分析できている地域包括支援センターの割合	目標値	100%	100%	100%
地域の課題等を共有し、問題解決に向けた取り組みを実施できている地域包括支援センターの割合	目標値	80%	80%	80%

基本目標3 在宅医療・介護連携の推進

【目指すべき姿】

高齢者の生活の場において医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面

- ①**日常の療養支援** ▶医療・介護関係者の多職種協働によって高齢者とその家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護を必要とする利用者が住み慣れた場所で生活ができるようにする。
- ②**入退院支援** ▶入退院の際に、医療・介護関係者が情報共有を行うことで、一体的で円滑な医療・介護サービスが提供され、本人が希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。
- ③**急変時の対応** ▶在宅や施設で過ごす高齢者の急変時に、医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、本人の意思も尊重した適切な対応が行われるようにする。
- ④**看取り** ▶高齢者が、人生の最終段階において望む場所で不安なく暮らすことができるよう、看取り等について認識・理解することができるようにする。また、医療・介護関係者は、人生の最終段階における意思を事前に共有し、それを実現できるように支援する。



【重点施策】(1) 切れ目のない在宅医療と介護の提供

→4つの場面ごとに連携がとれている

(2) 在宅医療・介護連携に関する普及・啓発

→市民が適切なサービスを選択する

基本目標3 在宅医療・介護連携の推進(つづき)

プランにおける指標			R6年度	R7年度	R8年度
在宅医療と介護の連携はとれているか	日常の療養支援	目標値※1	—	60%	—
	入退院支援	目標値※1	—	60%	—
	急変時の対応	目標値※1	—	55%	—
	看取り	目標値※1	—	55%	—
在宅医療と介護サービスに関する講演会および出前講座の参加者数		目標値	550人	560人	570人
最期を迎えたい場所の希望において、分からないと回答した割合		目標値※2	—	55%	—

※1 数値は、医療と介護のアンケート(3年ごとに実施)の結果に基づくため、R6年度、R8年度の目標値は設定していません。

※2 数値は、介護予防・日常生活圏域高齢者ニーズ調査(3年ごとに実施)の結果に基づくため、R6年度、R8年度の目標値は設定していません。

基本目標4 認知症施策の推進

【目指すべき姿】

- 認知症の人を含めた市民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら、認知症と共生できる地域づくり。
→※認知症への正しい知識の普及啓発や、地域の見守り体制の構築



【重点施策】(1) 認知症高齢者への支援

→認知症への正しい知識の普及啓発や、地域の見守り体制の構築

(2) 認知症予防の取組

→自主的かつ継続的に実施できるようにする

指標		R6年度	R7年度	R8年度
認知症サポーター数(延べ)	目標値	32,000人	34,000人	36,000人
認知症がどのような病気か知っている高齢者の割合	目標値 ※	—	90%	—
認知症予防に自主的に取り組むグループ数	目標値	30グループ	35グループ	40グループ

※ 数値は、介護予防・日常生活圏域高齢者ニーズ調査(3年ごとに実施)の結果に基づくため、R6年度、R8年度の目標値は設定していません。

基本目標5 権利擁護の推進

【目指すべき姿】

○地域の住民、民生委員、介護支援専門員等の支援だけでは十分に問題が解決できない、適切なサービス等につながる方法が見つからない等の困難な状況にある高齢者が、地域において尊厳ある生活を維持し、安心して生活を送ることができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者の権利擁護のため必要な支援を行う。

(地域支援事業実施要綱より)



【重点施策】(1) 高齢者の権利擁護

→虐待の防止と早期発見および支援

(2) 成年後見制度の利用促進

→地域連携ネットワークの機能強化、制度の周知

指標		R6年度	R7年度	R8年度
高齢者虐待防止連絡協議会の開催回数	目標値	1回	1回	1回
高齢者虐待防止に関する出前講座の実施回数	目標値	30回	30回	30回
成年後見制度利用促進協議会の開催回数	目標値	2回	2回	2回
成年後見制度等に関する出前講座の実施回数	目標値	17回	18回	20回

基本目標6 介護予防・健康づくり施策の充実

【目指すべき姿】

- 住民主体による支え合いを基盤とする多様な介護予防サービスを提供できる体制づくりを推進する。
- 高齢者一人ひとりに介護予防に関する基本的な知識を普及させ、高齢者のセルフマネジメント力を高め、自発的な介護予防活動につなぐようにする。
- 多職種が通いの場に積極的に関わり、地域の関係団体と協力し高齢者が地域で専門職に相談できる機会を増やしていく。



【重点施策】(1)多様な主体による介護予防サービスの提供

- 住民主体による支え合いによるサービスの拡大
- 住民同士のつながりの強化

(2)介護予防・健康づくりに関する普及・啓発

- より多くの高齢者が介護予防に関する知識や経験を身につける

(3)高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

- フレイル予防の取組を進め、介護が必要な状態になることを防ぎ、健康増進や健康寿命の延伸を図る

基本目標6 介護予防・健康づくり施策の充実(つづき)

指標		R6年度	R7年度	R8年度
住民主体による訪問型および通所型サービスの補助団体数	目標値	14団体	17団体	20団体
週1回以上開催される住民主体の通いの場の数	目標値	299か所	335か所	371か所
はつらつくらす事業と認知症予防事業への新規参加者数	目標値	380人	380人	380人
要支援・要介護認定を受けていない高齢者数の割合	目標値	80%	80%	80%
要介護認定を受けていない高齢者数の割合	目標値	85%	85%	85%

基本目標8 生きがいづくりと社会参加の促進

【目指すべき姿】

- 高齢者が生きがいを持ち、健康でいきいきとした生活を送ることができる。
- 市民一人ひとりが若いうちから高齢社会への関心と理解を深める。



【重点施策】(1)生きがいづくりと社会参加への支援

→活力ある健康長寿社会づくりの実現につながる

(2)高齢者福祉の啓発

→高齢社会を身近なものとして理解し、考える機会をつくる

指標		R6年度	R7年度	R8年度
趣味を持つ一般高齢者の割合	目標値※	—	71.5%	—
生きがいを持つ一般高齢者の割合	目標値※	—	56.9%	—
「老人保健福祉月間」標語の応募件数	目標値	335件	335件	335件

※ 数値は、介護予防・日常生活圏域高齢者ニーズ調査の結果に基づくため、R6年度、R8年度の目標値は設定していません。

ご清聴ありがとうございました♪



エイジフレンドリーシティあきた